



介護離職防止について講演する川内さん  
 長崎大文教委キャンパス

介護と仕事 両立に向け

# 家族任せの施設探して

介護離職を防ごうと、長崎大（長崎市文教町）は4日夜、同大教職員や地域住民らを対象にした講演会「家族介護のために離職を選ぶ？」を同大で開催した。神奈川県のNPO法人「となりのかいご」代表理事で社会福祉士の川内潤さん（36）が講師を務め、「家族を安心して任せられるサービスを探すことで、仕事と介護の両立はできる。自分だけで抱え込まないで」と

## 長崎大 社会福祉士が講演

呼び掛けた。介護離職は親や配偶者らの介護のために仕事を辞めること。収入が減って生活が成り立たなくなるほか、介護が終わった後の再就職が難しくなるリスクがある。講演には20〜70歳代の約50人が出席。川内さんは法定の介護休業（年間93日）について「介護は3カ月で終わらない。この間に自分で介護しようとせず、信頼

できるケアマネジャーや施設を探してほしい」と強調した。

実例として、妻が寝たきりとなった30代ビジネスマンが会社に現状を相談し、勤務態勢を整えた上で、訪問介護などを使い働き続けているケースを紹介。「仕事を辞めると経済環境が崩れ、人生そのものが壊れていきかねない」と指摘した。雇用者側に対しても「介護について社員が相談しやすい雰囲気をつくってほしい。コストをかけて育てた人材が離職するのは、企業にとっても損失だ」と指摘した。

（緒方秀一郎）